

第3回ふれあい自然観察会

印旛沼の水源・鹿島川の源流を訪ねて

小林義和（千葉市）

日 時：2010年10月11日（月）9～12時 天候：晴

参加者：14名（大人13名、子ども1名）

担当指導員：赤木、奥村、川北、小林、佐藤（一）、須田、武田、芳我、山田

9日実施予定であったが当日は朝から小雨の降る天候と午前中の降水確率が50%の予報の為に延期されて、予備日の今日実施の運びとなった。3日連休の初日、中日と二日続きの悪天候の影響を受けてか、好天の割合にしては出席率が約5割と少なかったが、好天も味方してか参加者には満足していただいたものと思います。

昭和の森の東屋を9時に出発して、正午頃に戻る3時間コースである。まずどのルートをたどるかルートの決定、鹿島川源流の自然を紹介できるコース選びと、正午頃はスタート地点に戻る条件で何回もの下見と観察ポイントの拾い出しを行った。

昭和の森には村田川、小中川、そして鹿島川の分水界があります。今回は鹿島川の源流を訪ねるコースです。印旛沼の水は鹿島川を含む流域からの流入水（94%）と利根川からみ上げた水（6%）で構成される。一方沼から出る水には農業用水（16%）水道用水（10%）工業用水（39%）自然排水（22%）ポンプ排水（13%）工業用水はJFEスチール、千葉市、市原市等の工場で使用されます。水道用水は柏井浄水場へ送られ、千葉市・浦安市・市川市・船橋市・習志野市・市原市の約95万人の飲料水として使用されます。自然観察を通じて川の水環境に注目してもらうのが観察会の目的に含まれています。

本日はまず歴史を感じさせる本寿寺のスダジイの古木や寺内の自然植生、キンモクセイの大木など豊かな自然の観察から始まり、宅地開発で貧弱になった河川の水源、調整池の目的、農業用堀井戸など鹿島川源流の特徴を説明しつつ、谷津田周りの植生を観察した、また土気城址近くの農家の樹木観察：カミヤツデ・ニッケイ・アオギリ・コウヨウザン・エンジュ・シロダモ・ムクノキ・ケンポナシ、途中史跡の紹介（時間の関係で紹介のみが多い）では、本寿寺、お経塚、土気城址の土壘、旧外房線の跨線橋、善勝寺、大正時代の道標、等。

最後は昭和の森公園の展望園地からの雄大な太平洋までの眺望を楽しんでスタート地点の東屋にと戻った。



本寿寺のキンモクセイを愛する参加者
写真撮影奥村氏